

peにあたる。

栽培は、沖縄での経験から、セントポーリアの要領で行った。用土には、バーミキュライト(5)、ピートモス(3)、日向土小粒(2)の混合土を用い、プラスチック製の丸型5号鉢に1株ずつ植えた。これらを冷房温室(室温15~25℃、湿度60%以上、約60%遮光下)に置き、常に用土が湿っているようかん水した。特に施肥はしなかったが、毎月1回、殺虫、殺菌剤にハイポネックス原液(1000倍)を加えて散布した。2株とも、1986年9月に生長を始め、1987年にかけてストロンを伸ばし、先に子株を形成した。同3月には初めて数輪が開花した。同6月、鉢土の表面にヤマゴケ(せん類)や水垢(藻類)が繁茂して生長が止まったので新しい用土で植え替えた。その後成育は良好となり、10月にも数輪が開花した。1988年は、3~4月にかけて開花したが、5月には前年と同様に生長が止まり、枯死する子株もあったため、再度新しい用土で植え替えた。同9月下旬、各鉢内に子株が密生状態となり、表面に水垢が出始めたので植え替えと同時に株分けを行った結果、15個体、13鉢になった。このうち、1個体は、横田博士の了解を得て国立科学博物館筑波実験植物園に分譲

した。

本種の自生地は、これまでのところ先述の辺野喜川流域しか知られていないが、その自生地は、1984年にダム建設の目的で樹木が皆伐されたため、本種は死滅したと思われる。一方、沖縄で栽培されていた株はすべて枯死したため、現存するオリヅルスミレの生きた株は、当園の14個体と筑波実験植物園の1個体だけになってしまった。当園の個体は、1989年3月現在良好な状態にあり多数の子株を生じているので、本年5月には株分けを行ってさらに増殖し、9~10月に沖縄に里帰りさせる予定である。

最後に、この貴重な植物を育てる機会を与えて下さった琉球大学理学部助手、横田昌嗣博士に感謝の意を表します。



オリヅルスミレ
(ストロンを伸ばした状態)

園内気象記録

昭和63年1月1日~12月31日

月別	気 温		湿 度	降水量
	平均最低	平均最高	平均最低	
1月	2.3℃	7.4℃	64.8℃	20.0mm
2月	-0.5	8.4	53.3	44.0
3月	2.5	11.1	58.0	165.0
4月	6.9	17.6	74.1	133.0
5月	12.4	21.1	80.3	335.0
6月	17.5	25.6	65.3	(374.5)
7月	22.1	28.8	45.8	218.0
8月	22.2	33.5		20.0
9月	18.6	27.4		162.0
10月	12.2	22.0		(66.0)
11月	4.6	15.1		(16.5)
12月	1.0	11.1		(7.0)
計				1561.0

() は広島県気象年報(1988)の数値。

<参 考>

最低気温記録日 2月5日 -5.7℃

最高気温記録日 8月9日 33.9℃

最大雨量記録日 6月2日 107mm

観測場所についてはこれまでの記録と同じであるが、8月~12月の平均最低湿度は計測値不良のために掲載しなかった。(渋谷寿伸・在岡孝行 記)